

令和3年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

(1) 名称

東京都立光明学園 学校運営連絡協議会

(2) 事務局の構成

主幹教諭（教務主任）＝事務局長、主幹教諭（肢体不自由教育部門小学部主任）、主幹教諭（肢体不自由教育部門中学部主任）、主幹教諭（肢体不自由教育部門高等部主任）、主幹教諭（病弱教育部門主任）、主幹教諭（分教室担当）、主幹教諭（生活指導主任）、経営企画課長代理：計8名

(3) 内部委員の構成

校長1名、副校長3名、経営企画課長、主幹教諭（教務主任）＝事務局長、主幹教諭（肢体不自由教育部門小学部主任）主幹教諭（肢体不自由教育部門中学部主任）主幹教諭（肢体不自由教育部門高等部主任）主幹教諭（病弱教育部門主任）主幹教諭（分教室担当）主幹教諭（生活指導主任）経営企画課長代理：計14名

(4) 協議委員の構成

学識経験者（3名）、特定非営利活動法人理事長、特例子会社取締役社長、地域交流中学校長、地域交流小学校長、社会奉仕団体委員、地域交流団体肢体不自由教育部門PTA会長、肢体不自由教育部門PTA副会長：計10名

(5) 評価委員会の構成

学識経験者（2名）、特定非営利活動法人理事長、社会奉仕団体委員、肢体不自由教育部門PTA会長：計5名

2 令和元年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者数、内容

（感染症流行に伴い、第2回、第3回は、資料発送、個別意見集約・リモートの形で実施）

第1回 令和3年7月8日（木） 内部委員13名、協議委員10名（2名リモート）

協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出、
学校経営計画説明、本校の教育活動について説明、
校内見学、意見交換

第2回 令和3年9月22日（水） 内部委員7名、協議委員10名

これまでの教育活動に関する報告、学校評価実施計画説明、
協議委員からの教育活動に対する意見

第3回 令和4年2月24日（木） 内部委員9名、協議委員9名

これまでの教育活動に関する報告、学校評価の内容報告
学校評価を受けての、次年度に向けての提言

(2) 評価委員会の開催日時、出席者数、内容

第1回 令和3年9月22日（水） 評価委員5名

学校評価の基本方針の確認、
学校評価の評価項目・アンケート用紙についての検討、今年度の学校評価の実施に向けた検討

3 学校運営連絡協議会による学校評価(学校評価報告)

(1) 学校評価の観点

「学校への理解」「学校運営の意気込み」「指導の実践」の観点で実施する。

(2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

・12月	協議委員	対象：10人	回収：7人	回収率：70%
・12月	全校保護者	対象：221人	回収：82人	回収率：37%
・12月	教職員	対象：185人	回収：185人	回収率：100%
・12月	全校児童・生徒	対象：240人	回収：103人	回収率：43%

(3) 主な評価項目

令和3年度学校経営計画の各項目に対する評価項目を挙げたのち、重複する内容に関する項目や加えた方がよい項目について整理・精選し「学校の魅力の創出」「指導の充実」「安全な学校生活」「児童・生徒の健康」「業務改善を含むワークライフバランス関係」の5分野での評価を実施した。また、各項目に関する自由意見欄を設定した。

(4) 評価結果の概要・分析・考察

学園生の健康の保持・安心安全の確保・いじめ体罰自殺防止に関する全ての設問について、保護者の肯定的評価が95%を超えた。スクールバス・医療的ケア専用通学車両に関する教職員及び乗務員への研修実施、総合防災訓練の実施、感染症予防対策の徹底、各種通信の4計画的発出、ホームページやtwitterでの情報発信を継続し続けたことが肯定的評価につながった。計画的かつ適時の情報発信について、今後も継続して取り組んでいく。

学校評価にアンケート作成ツールを初めて活用し、回答作成が容易になったことへの好評価が寄せられた。一方、保護者回答率が低く、保護者回答率を上げていくために、学校に入ることができない状況が続く中で、学校のことがよくわかり、学校への期待値を高めることができる取組みの創造に今後も愚直に取り組んでいく。

医療的ケアの安全な実施環境については90%後半の高い肯定的評価を得た。個別の意見には、コロナ禍では看護師や教職員の実施者と直接話す機会が限られているため、看護師等との個別的なやりとりの充実に望む声があった。新たな日常に応じた信頼関係の充実が課題となった。

学習指導・専門性向上については、摂食指導・ICT機器や支援機器活用、外部専門家等の有識者活用など、個別具体的な取組みに対する肯定的評価が90%に届かなかった。一方で、読書活動、光明アートプロジェクトに対する肯定的評価は90%を超えた。学校全体で取り組んでいる、情報発信の機会の多い取組みへの評価が高く、個別的・日常的な取組についてよりよく理解していただくために、学部・学年・担任からの情報発信の時期や内容の改善を図る必要がある。授業参観期間の参観ガイドや、全国公開研究会での発表など、情報発信力や説明力を高める機会を設けているが、日常的な指導等に関する情報発信や、外部専門家等を活用する前後の保護者への説明について教員には個人差があり、組織的に一定の質を担保した発信が実現できるようにするための具体的な方策を立てることが課題である。

長引くコロナ禍において、「学園生の命を守る」を第一に「学びを止めない」よう全力を尽くして学校経営を行ってきた。教育活動に制限がある状況下で、肢・病併置校の魅力について、90%を超える肯定的評価を得た。地域支援や進路指導については昨年度来、自立と社会参加に向けた切れ目のない支援の実現について取組み、90%を超える肯定的評価を得た。

ライフワークバランスに関する取組では、業務の効率化が継続課題となっている。副校長マネジメント

支援員や、非常勤教諭の学校運営補佐としての活用には一定の評価を得ている。主幹教諭・主任教諭の学校経営におけるミッションを一覧化し、教諭層を含めた業務ラインの業務目標の明確化を図っていることにも教職員が肯定的な評価を寄せている。一方、業務の共有化、主任教諭の主体的・積極的経営参画や、課題解決に向けた職務行動については課題があり、主任教諭を中心とした運営を実現するための、マネジメント、人材育成を図る必要がある。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

(1) 学校運営連絡協議会での協議委員からの肯定的評価・提言

柱1「学びを止めない光明学園」の取り組みへの評価

- 肢体不自由、病弱の両部門の一体化への取り組みが、田村校長着任以来他校に比べ、大変着実に進められている。始業式などの式典関係をはじめ校内行事での一体化は、光美展、光書展、光明祭など多方面にわたって展開されている。それらは根気強く創意を凝らし、知恵を絞って取り組まれていてすごいなと驚くばかりである。とりわけ光美展では、特設展示や素晴らしい校内ギャラリーで、子供同士が刺激しあい、感性を磨く場になっていると思われる。光書展もしかり、掲示教育の範をなすかとおもう。他面、図書活動は、言葉や概念形成にとどまらずPOPコンテストの企画実施など他校と連携しながら行い、プレゼンテーションへの道標にもなる発表活動の素地まで育んでいる。また他校ではお目にかかれなようなオペラコンサートなども実施し、通常の学習活動をベースに多角的、多面的な伸長を図る教育実践が展開され、大きな成果を生んでいると思われる。
- コロナ禍にあっても「学びを止めない光明学園」の姿勢には保護者として感謝している。学びは継続してこそ意味があるものと考え。身体面でも知的面でも我が子はここ数年で大きく成長した。引き続き、熱心なご指導をどうぞよろしく願いたい。どちらも素晴らしい取り組みですので、先生方のモチベーションが高く等しくあるようにと期待している。
- 最初に、ロータリークラブの図書寄贈により、本校の図書事業がとても充実した。我が子も、2学期末に図書コンクールで21冊の本を借りて表彰されて担任の先生と親子で喜んでいて。この場をかりて感謝申し上げる。コロナ禍で自宅待機中にも学校図書を配布物とともに送付されて、家庭でも学校図書を読んで過ごすことができた。そこでも有難いと思った。オンライン授業が自宅待機の児童・生徒に実施されていることは通学している児童生徒も教室から参加していることから双方で参加している認識があり、取組みは十分に周知されていて評価されていると思う。また、感染防止対策をきちんと実施していただくと共に、感染状況の報告を適宜行っていることからも各家庭が登校の判断を独自で行い、安心して登校を選択することに繋がっていると思う。とても手間がかかることと思うが、継続していただき学校と家庭双方でこの状況を乗り越えていくことが大切だと思う。
- 「学びを止めない」をスローガンとして、困難な状況にあっても行為工夫している姿勢が、いただいた情報から汲み取ることができた。
- 1月中旬から陽性者発生にともなう対応の中でも、Teamsを利用したオンライン配信や教材の自宅送付を迅速に行うなど、取り組みをされていたと感じた。緊急時でも学びを止めないことをしっかりと実行されていました。光明祭や光美展もコロナ禍ということで、映像を活用するなど、新たな学びにつながる活動に進化されていて良かったと思った。
- すばらしいスローガンで、送付いただいた学校評価の資料、すべてに理念として貫かれていると思った。光美展などは特に感動した。
- コロナ禍において校外学習が制限される中、それに代わるプログラムとしてクラシックコンサートなどを実施されている事、またGIGAスクール構想の推進など、様々な取り組みを評価する。

柱2「安全、安心な光明学園」の取り組みへの評価

- 多彩な情報発信を企画実施し、安全・安心な学校運営が展開されています。情報不足、行き違いなど保護者からの不安や苦情も見られるが、コロナ禍のすさまじい環境の中で、校長以下全教職員が丸

となって対応しているのが良く分った。

○様々な情報開示を積極的に行ってくれていることが、学校への安心感、信頼感に繋がっていると思う。保護者によっては発信手法についての意見が出るかもしれないが、発信が少なければ不安な気持ちになった。これからも継続して情報発信・情報開示していただけますようお願いしたい。特に防災関連、コロナ関連の情報は多くの保護者が興味を持っていることだと存思う。

- スクールバス-医療的ケア専用通学車両に関する教職員及び乗務員への研修、総合防災訓練、更なる感染予防対策の徹底した取組みはとても良かったと思う。特に、スクールバスの乗務員研修は、8月に福岡県でおきた保育園の送迎バス取り残しの事故を鑑みて校長先生自ら2学期の初日に実施され、その中で「バスの中で有事が起きた際には躊躇せず命を守るために学校を介さずに直接救急車を呼んでください」との御指導に本校の児童生徒のことをとても大切に思ってくくださっていることを確認できた。これは、令和元年に宮城県でのスクールバス内での急変による死亡例より、正しいプロセスより児童・生徒の命を最優先するものとし、医療的ケアを有する児童生徒が多く在籍する本校でとても有難く、是非継続していただきたいと思う。また、防犯に関しましても西棟の閉門の頻度も高く、北棟のトイレに「さすまた」が設置してあるのを確認できた。今後の防犯訓練でも役立てていただき有事に備えていただきたいと思う。併せて「防災の橋」に防災備蓄品同様掲載してあり情報が共有されて今後、学校と保護者の信頼関係に繋がると思う。
- 養護教諭を始めとする保健室の働きは評価している。
- 日頃からの丁寧な安全・安心に対する取り組みをしていられると思う。1月中旬から学校関係者への感染拡大に対して迅速な対応や情報発信がなされていたと感じた。
- 本校の特質上、最も安全・安心が重要ですが、細心の注意を払われ、コロナ禍でさらなる向上を目指しているという志が素晴らしいと思った。
- 「光明の学び」に、学習活動の変更あるいは行事の人数制限や感染予防対策などの報告があり、“安全・安心”に学校生活が送れるように大変工夫がされていると思った。

柱3「新たな日常が続く、今後の課題と対応」への評価

- コロナ禍によりオンライン化が進みました。オンライン技術や設備などへの保護者意見が少なくないことと想像する。受け手は簡便になりましたが、運営側の労力は大きくなったと思われる。先生方のご負担が大きくなるように思う。他校関係者からHPやTwitterなどで本校の情報チェックをしている、勉強になる、と言われることが度々ある。保護者としても嬉しいことである。ありがとうございます。過去2年間のコロナ禍の中で、学校と保護者の信頼関係が深くなっていることと感じている。長らくコロナ禍、いつ起きてもおかしくない大災害、と不安要素は多いが、引き続き対策と情報公開をお願いしたい。
- With コロナの準備はできている。評議委員としても進路への取り組みに貢献したいと考えている。
- まだしばらくはこの状況は継続すると思うが、感染や症状について新しくわかってきてきたこともある。これからは臨機応変な対応も求められてくると思う。
- アンケート結果にも、教職員の一丸となった対応に評価が集まっており、客観的にも自信をもって良い。
- オンライン授業やオペレッタや光書展など専門家の指導の下に展開する学校行事の工夫、保護者の学習会など家庭の教育力を進める企画など、内容・方法が多角的な展開されていて他に例を見ない優れた実践である。とりわけ、アートギャラリー、壁画、横断幕などの発信は、児童・生徒のみならず地域や保護者に実りある内容を届けている。
- 学びの工夫をさらに進める教員の柔軟な発想と前向きな姿勢が見られ、それが子どもたちに伝わった。
- 光明祭やプレゼンカップ、ビデオ制作、検定への挑戦など、児童・生徒が、自主的・創造的に参加できる環境の整備に力を入れ、児童・生徒に大きな刺激を与えている。
- ブックレットの光美展作品集素晴らしい。児童・生徒の宝物になる。
- 本物のオペラ歌手を学校に呼ぼうという発想がすごい。生徒は感動し、グローバルな興味を広げられた。

コロナ禍の困難を逆手にとる新しい発想と言える。

- どこよりも早くオンラインに活路を見出したことは、まさに“光明”の真骨頂であった。子供の笑顔が見られ、グループでのオンライン配信で仲間意識も保たれた。プリントや教材が自宅に届けられ、年度途中の段階で授業保障が90%まで回復し、とても良かった。また、病弱教育部門においては、寄宿舎の対応が、早期の学校再開に重要な役割を果たした。
- コロナ禍の大変な状況の中でも、しっかりと研究の取組ができていた。
- 医療的ケア体制、摂食のアレルギー対応も、とても丁寧で慎重で、安全が保たれている。
- 病弱教育部門の一人通学の取組は、家庭との連携の元、着実に遂行している。
- 具体的な対応策が、保護者向け通信「健康の橋」に見える形で示されて、不安の低減につながった。まず情報発信に注力したことで、不安を取り除き、保護者に安心感を与えたことは最良であった。
- 校長を中心とする学校と、会長を中心とするPTAが、それぞれのチーム力を発揮しながら協力し合える関係をもてた。それにより、保護者の声についてはPTAを通じて受け止め、それに応える中で不安が一つずつ解消され、学校に送り出せるようになったことが、保護者の安心と感謝につながった。

(2) 学校運営連絡協議会での協議委員が示した、取り組むべき課題

柱1「学びを止めない光明学園」の取り組みへの課題

- 図書活動への取り組みやICT端末の活用については、担任の先生によって違いがあるように感じた。
- GIGA スクール端末の使用は第6波になり毎日持帰る様になったが、オンライン授業以外で日頃の学習の中でどれくらい使用してあるのかは疑問である。教員のオンライン研修の導入や授業者支援会議などの取組は十分に評価できるが、技術の習得部分と個人情報保護の観点によるチェックなどの労力に対する取組みが教員や学年により差があるように感じられる。本校の児童・生徒は文字の読み書きや発語が困難であるが、動画を見ること、聞くことから認知力を育み、機器を使用して思いを伝えることが可能だと我が子を見て思う。GIGA スクール端末の活用を、日頃の授業でどの様に導入されているのかを把握して上手く授業の中で日常的に活かしていく様に導いてもらいたい。

柱2「安全、安心な光明学園」の取り組みへの課題

- 保護者対応は、やはり、「聞く耳」を持ち、保護者の意見や考えをよく聞いたうえで、復唱確認し、対応すべきである。紛争のものは、聞き違い、はやとちりによる誤解に原因がある。

柱3「新たな日常が続く、今後の課題と対応」への課題

- 児童・生徒の学校評価が定着してきていて素晴らしい。多くの児童・生徒は学校生活に満足している様子がうかがえる。その点は評価したい。その中で気が付いた点を以下に列挙する。
 - ア 率直な意見が上がってきている。(S部門準ずる、知的代替)
(先生は)あまり聞いてくれない、相談できない、相談したくない。(学校は楽しいか)少し物足りない、つまらない
 - イ B部門で(学校生活が充実)(授業の進度。内容)(必要な学力の伸長)の設問であまりあてはまらない等の授業に関する「マイナス評価」が見られる。
B部門で「悩み」「個人面談」「進路指導」の相談業務でシビアな評価が出ている。
 - ウ 分教室の準ずる課程の小学部生徒の中に(学校は楽しいか?)に「物足りない」の意見。
これは貴重。十分検討を。
 - エ 準ずる課程等それぞれの部門で教科学習が展開されているかと思われるが、「自立課程」同様に児童・生徒がどんな授業に興味。関心があるのか設問を出すべき。児童生徒の実態把握のために次年度以降の改善を望みたい。
 - オ 人数が少ない中での評価だが、「マイナス評価」については十分対応が必要と考える。
 - カ S部門の自立課程で好きな教科として多くの児童生徒が「音楽」を上げている。耳に入る言葉、音楽、環境音のうち、音楽がとりわけ楽しくさせていることがわかる。障害の重い子でも「歌」の歌詞をよく覚え、うたっているのは障害種別を超えて共通している。オペラなどの専門家によ

るコンサートなど、他校では味わえない企画が多いので、美術や書道などにみられる多様な実践の様に、スヌーズレンも含め多様な音楽ジャンルから教育的効果が得られるように、多面的に検討し実践を工夫してほしい。

キ 同様に「図工」も人気が高い。光美術展に集約される実践が児童生徒の創造性などを刺激しているに違いない。子供の特性を伸ばせるような発展を期待したい。準ずる課程等でも同様と考える。

ク 自立課程だけではなくすべての児童生徒にとって給食は、学校生活の中でおいしいものを食べる行為だけに、興味関心は高い。自由記述の中で「配膳システム」の改善の要望が出されていたが、工夫・改善に関して生徒会等の話し合いで提案してほしいという回答は自律や自主性創造性を発揮させる機会として適切だ。

○感染状況と感染予防対策を講じることで、学校全体の経験値が下がっているのが現状かと思われる。まずは、北棟に新設された屋内型プールの運用をできるだけ積極的に行っていただき、施設面や指導体制などを整えていただきたいと思います。外出する機会も少なくなり、プールに入ったことを子供たちも思い出すことができるはずである。学校内で子供たちが経験を行うためであれば保護者の協力も得やすい。

○東京都災害対策基本法(令和3年5月改正)に伴い、本校でも災害時要配慮者が通う学校ですので防災備蓄品を活用した災害時防災訓練を児童生徒と併せて保護者を含めて実施されることを提案する。

○本校は医療的ケアを有する児童・生徒が多く通う本校である。医療的ケア児支援法が施行され、人工呼吸器使用者の付添い問題が急加速している様に思う。専用車両の導入と付添い短縮事業の促進に伴い児童・生徒が単独で通学することから、アンケートにもあったが保健室と保護者との意思疎通がスムーズに行われる様にご配慮をお願いしたい。

○保護者が書かれた自由記述は、丁寧に具体化することでより一層の信頼が得られる内容であった。

○授業も映像化することで、様々な様子が分かるので、肖像権の課題もありますが、映像を見る機会をつくと保護者が安心すると思う。

○GIGA スクールの整備・活用のさらなる促進により、学びを止めない学びを深めていただきたい。

○学校評価の中で気になることが二点あった。(本校)の「いじめ・体罰」と「感染予防・感染拡大防止等対応」の設問に対して、保護者と教職員の評価に差があるのはなぜだろうか。また、(児童生徒)の評価で、少数ではあるが、「S 部門小・中・高」の「授業内容はわかりやすいですか」「先生の教え方はどうですか」「先生に悩み事などの相談はしやすいですか」と「B 部門中・高」の「学校(寄宿舎生活を含む)は生徒の心身の健康管理に取り組んでいると思いますか」の回答が気がかりである。

○環境整備においては、収納棚も増設され、整理整頓が期待される。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 10人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少 そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう 思わない	分からない	無回答
6	1	0	0	0	0	2

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議(全校連絡会)1回、※3名参加(オンライン参加及び助言代読)

【成果】 校長から教職員へ、学校の今年度の成果と課題及び改善策についていただいた提言を、資料解説も加えて報告することで、校内の共通理解を図り、教職員の学校経営計画実現に向けた取組についての意識改善につながった。